

[位置図]



＝矢作ダムの洪水調節機能の強化＝

矢作ダム再生事業

～洪水被害を防止・軽減する治水対策～

[矢作川流域図]



矢作ダム

- 凡例
- 流域界
 - 県境
 - 市町村境
 - 大臣管理区間
 - 河川
 - 既設ダム(治水)
 - 既設ダム(利水)
 - 頭首工
 - 高速道路
 - 主要道路
 - JR(新幹線)
 - JR(在来線)
 - 私鉄
 - 基準地点
 - 主要地点



国土交通省 中部地方整備局
豊橋河川事務所 矢作ダム管理所

※本資料は、今後の調査・検討により変更する場合があります。

事業の概要

現在の矢作ダムでは、放流能力が不足しているため、平成12年 9月洪水(東海(恵南)豪雨)のような大きい規模の洪水に対し、洪水ピーク前にダムの容量が満杯となり、洪水ピーク時に十分な洪水調節を行うことができません。

洪水ピーク時にダムの容量が満杯とならないためには、洪水初期にできるだけダムの水位上昇を抑えておく必要があります、そのためには洪水調節機能の強化(放流施設の増強：トンネルの新設を想定)が必要です。

放流施設増強イメージ

現 状

既設ゲート(非常時)
6.5m×10.5m×4門

既設ゲート(常用)
4m×4.1m×3門

放流施設の増強後

放流トンネルを想定

洪水初期イメージ

矢作ダム

今あるゲートだけでは放流能力が小さいため、すぐに貯まってしまう

矢作ダム

放流能力を増強したことにより、従来よりも水位上昇を抑えることができる

洪水ピーク時イメージ

矢作ダム

ダムの容量が満杯となり洪水調節ができなくなる

矢作ダム

ダムの容量が確保され、洪水調節ができる

放流トンネルのイメージ

天ヶ瀬ダム
(京都府宇治市)



事業の効果

平成12年9月洪水(東海(恵南)豪雨)と同程度規模の洪水を想定した場合、浸水世帯数8,700世帯、浸水面積460haの被害が想定されますが、整備を実施することで浸水被害が解消されます。

事業実施前



事業実施後



	① 事業実施前	② 事業実施後	軽減効果(①-②)
浸水世帯数(世帯)	8,700	0	8,700
浸水面積(ha)	460	0	460

河川整備の進め方

河川の整備(国管理区間及び県管理区間)と矢作ダムの洪水調節機能の増強を、一体的に国と県が調整・連携して実施し、矢作川の安心・安全を確保します。

国管理区間(下流部) 河口～矢作古川分派施設	完成
国管理区間(中流部) 矢作古川分派施設～明治用水頭首工	河道掘削、堤防整備等
国管理区間(上流部) 明治頭首工～籠川合流点	河道掘削、堤防整備、礫の首狭窄部対策等
愛知県管理区間 籠川合流点～矢作ダム	整備計画策定 河道掘削、堤防整備等
矢作ダム再生事業	計画・調査 設計・工事